

台湾スクーリングに参加して

寛座さん（2022年3月 短期大学部卒）

はじめまして。私は卒業ゼミナールの単位を取得するために台湾スクーリングに参加しました。還暦を過ぎて孫たちからは「ばあば」と呼ばれていますが、何事も億劫な年齢になってしまいました。それでも、思い切って台湾スクーリングに申し込むことにしました。



出発する日の朝は早朝で関西空港に集合するため、前泊して空港前ホテルに泊まりました。学生の皆さんは若者で、スクーリングの先生は優しい印象でした。スクーリングではマクロ経済学の講義があり、予習のために通信教育のテキストや参考文献を読みました。マクロ経済学は自由主義経済を理解するために重要であり、経済学の知識が私たちの行動や世界を変える力を持つことを感じました。しかし、経済学は難しく、迷路の中を彷徨うような学習状態で、大きな不安を抱えながら関西空港から台湾に向けて出発しました。

スクーリングの会場は台北の郊外にある北投会館でした。今年は暖冬で、気温が20℃近くまで上がり、曇りがちで湿度も高い天候でした。台湾の校友会である梅友会の方々から温かい歓迎を受け、たくさんの差し入れもいただきました。日本からの学生5人と台湾の学生3人で、内上先生の講義が始まりました。



講義では、経済学の最も重要な課題は失業を解消することだと学びました。GDP（国内総生産）は、一つの国が1年間に生み出した新しいものの総量を指し、GDPが高いほど物質的に豊かと考えられています。また、経済の変動の主な要因は「消費」と「投資」であり、私たちが台湾でお土産を買って消費することも台湾のGDPに貢献していることも学びました。

内上先生は台湾メトロに乗って市内の夜市に連れて行ってくれたり、台湾のタピオカドリンクを全員にご馳走してくれたり、台湾の人々や文化に触れる機会をたくさん与えてくれました。また、台北市内では翌月に台湾の総統選挙が行われることもあり、普段なかなか体験できない街の雰囲気を感じることができました。



今回のスクーリングで一番印象深かったのは、台湾の学生や卒業生の方々がとても友好的でポジティブな雰囲気だったことです。また、日本の20代や30代の学生たちも皆さん素晴らしい人たちで、居心地の良い距離感でコミュニケーションを取ってくれました。さらに、事務局の方々の細やかな気配りがあり、安心して台湾スクーリングや観光を終えることができたことに感謝しています。本当にありがとうございました。最後になりますが、私の夫にはこのような機会を与えてくれたことに感謝しながら、家に帰る準備をしています。この様な機会を与えてくれたわが夫にも感謝し家路につきました。

